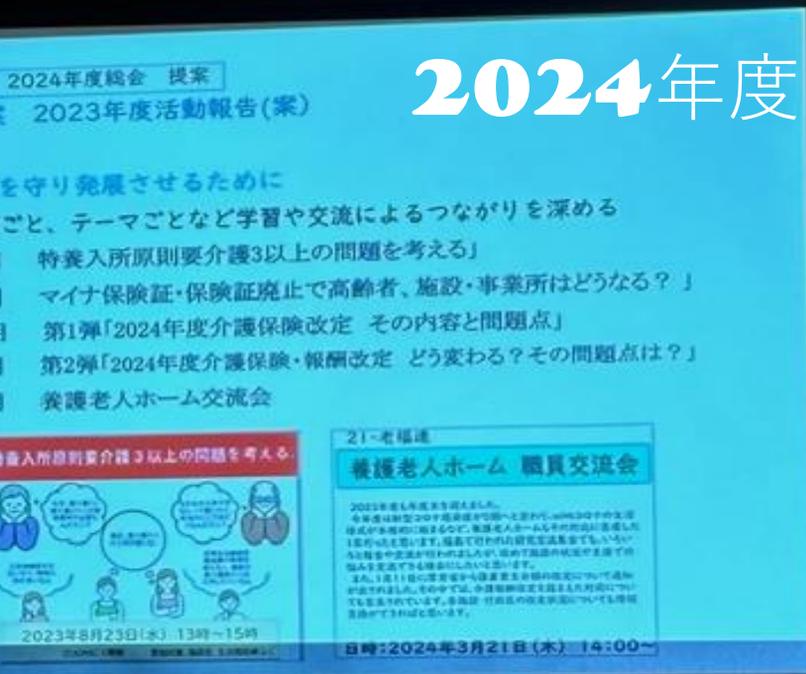


2024年度 老福連総会

6/28(金)、6/29(土)

ロワジールホテル豊橋



■2024年度総会には、総勢63名が参加。初日、総会議決権を有する参加者は、豊橋会場に22名・オンラインは30名、委任状は36名でした。2日目の参加は会場22名・オンライン26名、委任状38名でした。両日とも、老福連の会則に則り、総会の成立要件を満たしました。

グループホーム白十字あきつ管理者の菅原朋人さんが総会の議長を務められました。

1日目、第1〜第5号議案について提案。その後、令和6年1月1日に発生した能登半島地震の被災地域からの特別発言がありました。その後は、発言通告用紙に基づき、第21回職員研究交流集会の集会報告／介護報酬再改定を求める取り組み報告／小規模多機能の現状報告／中国ブロック活動の取り組み報告／訪問介護の報酬引き下げや実態報告／人材確保や生産性向上推進への見解報告、がありました。

1日目の夜には、交流会を開催。初めての参加の方々にもマイクが回り、一言発言いただきました。様々な情報交換、他愛のない断章、良い時間を過ごしました。

2日目、同じく菅原朋人さんの議事進行により始まりました。発言通告に基づき、故常陸実代表幹事(ひまわり福祉会前理事長)の遺志／新型コロナの影響や医療介護連携／第22回職員研究交流集会 in 大阪企画内容の提案、がありました。その後は、事務局長より討論のまとめ、第6号議案の提案を行いました。そして総会成立確認の後、総会議案の採択となり、賛成多数にて第1〜6号議案は可決されました。役員および事務局の退任、新役員および事務局就任の方々の挨拶がありました。

そして、特別講演として高木博史先生(岐阜協立大学経済学部教授)にご登壇いただきました。

【特別報告①】

今宮洋之さん（生活相談員）

社会福祉法人やすらぎ福祉会（金沢市）

○地震当初、入居者や勤務職員に受傷者はなく、建物被害もほぼない状況でしたが、後にはボイラー等の破損が判明。年末から続く施設内の新型コロナウイルス蔓延中の出来事だったが、法人として被災者受入要請に応えた。

○被災者の受入にはスピード感をもち限られた情報の中で、かつオーバーベッドの中での奮闘であった。もちろん疲弊感はあるが、被災者やその家族の支えになったと思う。受入をしてよかったという職員の思いがある。

○まだ、この先の行き場がどうなるのか、戻ることができなのか、それはいつなのか等、課題は山積したままである。

○復興の見通しはまだまだ見えない。

【特別報告②】

細貝昌明さん（理事長）

社会福祉法人坂井輪会（新潟市）

○地震当初、施設内の人的被害はなく津波を想定し、入居者を毛布に包んで2階以上に避難。食堂や廊下に畳やマットレスを敷き、避難先を確保。

○建物全体のクラックが発生。敷地内や周辺道路の液化化や地盤沈下が顕著。合併浄化槽の落ち込みも判明し修繕に5千万円。行政への被害額報告と補助申請必要書類を提出し、ようやく動き始めた。

○被災対象とされる職員は約30名。大規模半壊以上で住居できない職員1名が退職を余儀なくされた。

○BCPは慌てないための一つのツールであり、業務復旧までの間はマンパワーの課題が大きいと感じた。

○新潟市西区は、現状は高齢者の独居や高齢者夫婦世帯が多い。住むことを諦めざるを得ない人はこの西区から出ていくことを選択。



特別講演 高木博史先生

岐阜協立大学経済学部教授



総会二日目、岐阜協立大学経済学部教授の高木博史氏より「高齢者をめぐる貧困の現状と課題
～高齢者と家族への支援を考える」と題して、講演いただきました。

高木氏はまず、日本の生活保護をめぐる状況について、受給世帯総数165万世帯のうち高齢者世帯が約91万世帯で55.5%であること、約91万世帯の高齢受給者のうち約84万世帯、92.9%が単身高齢者世帯であることに言及。マスコミでよく流布されている、「生活保護って『若い人が仕事もせずにブラブラして、もらってる』という報道が実情とかけ離れていることを指摘しました。また、65歳以上の一世帯当たりの平均所得金額は約420万円、一人あたり約235万円と、ワーキングプアの年額200万円と同じ所得水準であること、貯蓄5万円以下の層が全体の4割～5割ということからも、「高齢者は、金持ち」という論調は高齢者の実態とかけ離れていることを指摘しました。

こうした状況の中で、年金の額面が上がっても物価の上昇に追いつかないということが起こっており、実際は年金が減ってもっと大変になっていること、加えて、8050問題や7040問題ということも社会問題化する中で貧困問題が顕在化してきていることに言及しました。そして「介護の社会化」を掲げて登場した、「介護保険制度」が、結局は福祉に市場化を導入したもので、民間の営利企業の参入を許し、お金のない人は必要な介護や福祉を受けられなくなったことが、高齢者の貧困化に一層拍車をかけていることを指摘しました。

また、お金がなくても、必要な介護・福祉が受けるようにしていくために努力するソーシャルワーカーの存在が必要となってきたが、現状の国の制度や法律、資格制度や教育がそうしたものになっておらず、狭い介護保険の枠の中だけで問題を解決していくだけでは限界があると指摘。日々の仕事は多忙を極めているけれども、そうした現状に目を向け、声をあげみんなが現状を変革していくことをよびかけて、講演を結びました。

ケアハウス交流会（報告） R6.6.29 開催

老福連総会終了後に、総会に現地参加されたケアハウス関係者と昼食をとりつつ交流会を開催しました。本部事務局長、事務局次長をはじめ、4つのケアハウス施設長（愛知県・新潟県・京都市）と意見交換をしました。

5月7日にオンラインによる交流会を開催したので、今回は2回目の交流会になります。今回の参加者はオンライン交流会にも参加されていたため、オンライン交流会での話題を深く聞くことができました。軽費老人ホームは自治体への権限移譲により、補助金や職員処遇改善等、各自治体による対応の差をあらためて痛感する機会になっています。また、重度化する入居者の状態に対する同法人内の特養への住み替えなどの判断基準や、退居時の原状回復の実際など、情報交換できる機会となりました。

今回は、総会終了後に現地参加者のみの開催となったため、少人数となりましたが、厚労省に要望する項目の整理に繋げるために、今後も交流会を重ねてまいります。お気軽にご参加ください。

幹事 阿藤広志

この交流会後、ケアハウスすこやかかの里の見学をさせていただきました。ありがとうございました。 介山 篤

ヘルパー交流会（報告） R6.7.18 開催

当日、全国より16事業所、27名が参加してくださいました。

事前アンケートより、「他事業所への質問、知りたいこと」の中から、1. 人材確保 2. 人材育成 3. サ責業務について 4. ICT化について 5. モチベーションの保ち方やヘルパーとのコミュニケーションなどを中心に意見交換が行われました。

- 人材確保については、どの事業所も課題でありヘルパーの高齢化について「このままでは働く人がいなくなるのではないか」と不安を訴える声も多く聞かれました。そんな中でも「職員による紹介制度を導入し確保に繋がった」「ヘルパーのやりがいあるあるを漫画にしてチラシ作成している」と前向きな意見もあり、元気をもらいました。
- 最後に4月の報酬改定で訪問介護の報酬が引き下げられたことについて、多くの方から「やりがいある仕事だが報酬引き下げされるモチベーション下がっている！」と怒りの声があがりました。21老福連では今年度も厚労省交渉を予定しています。皆さんの声を届け、報酬引き上げを求めてきたいと決意を新たにしました。
- 交流会については「全国の方とつながれてよかった。また機会があれば参加したい」との声が聞かれました。今後も企画していきたいと思えます。参加して下さった皆様ありがとうございました。

幹事：重村由香

第22回職員研究交流集会 IN 大阪

① 老福連 と検索

② ココ をクリック



《交流誌・集会資料等》ページにジャンプします。

今後、演題エントリー用紙や抄録用紙をダウンロードできるようにします。

開催要綱をお読みください😊😊😊

● 交流誌・集会資料等

総会・施設長会議

職員研究交流集会

ブロックの取組

会員施設からの話題

情報

NEW!

◆ 第22回職員研究交流集会（大阪府 大阪市・吹田市） ◆ 2024.12/7(土)～8(日)

○ 研究交流集会の開催要綱

・ <要綱> [第22回職員研究交流集会in大阪 開催要綱 \(PDF\)](#)

・ 参加申し込み、演題エントリー受付は、8月1日～開始します！

③ 8月1日より、参加申込できるようになります。
参加申込は「申込専用サイト」からお願いします。

「申込専用サイト」の申込方法に関するお問い合わせは専用サイト内の「お問合せ」からお願いします。

分科会に関するお問い合わせは「原谷こぶしの里：介山」までご連絡ください
atsushi.kaiyama@nananokai.com